

令和6年度 学校経営計画・学校評価			☑4月4日提出	✓10月3日提出	☑3月14日提出	学校番号	2	室戸	高等学校	課程	定
高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人		基本方針	①予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備							
	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針)			【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針)							
スクール・ポリシー	①定時制の時間帯で学習したい生徒を募集します ②小・中学校の学習内容から学びなおしたいと考えている生徒を募集します ③授業にまじめに取り組み、基礎学力を身につける意欲を持つ生徒を募集します ④高等学校を卒業するという強い意志を持った生徒を募集します		①3修制や高卒認定試験などの活用により、3年間での卒業が可能 ②少人数で学力やニーズに応じたきめ細かな学習指導を行う ③ICTを活用して、自ら学び(情報収集)考え(思考)広げる(発表等)学習を行う ④地元の主要産業や企業、伝統文化や特色等「ふるさと」を知る学習を行う ⑤企業人を招いたり、就労を促したりするキャリア教育を重視する ⑥進路実現に向けた基礎学力の定着を図る ⑦学校行事を通じて、連帯感や達成感、充実感の向上を図る								
	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ①自信を持ち、自分は認められているという認識を持った生徒 ②少人数指導とICT活用により、基礎学力が定着している生徒 ③個性と自主性を生かして進路希望を実現する力を持った生徒 ④望ましい人間関係がつけれる心豊かな人間力を持った生徒 ⑤社会人として必要なコミュニケーション能力を持った生徒 ⑥防災教育の学習・訓練等を通じて、災害への備え、有事の際の行動ができる生徒										

学校関係者評価	
【学力の向上】	評価【 B 】 教員は学校教育活動全体でICT機器を十分活用されているようだ。次年度は生徒自身が積極的に活用するような、主体性を促す取組が必要ではないだろうか。授業前から生徒が体力的に消耗しているように見受けられる時がある。定時制も進路決定率向上を目指してほしい。
【社会性の育成】	評価【 B 】 全国大会への出場は素晴らしい成果である。在籍する生徒のこれまでの学習歴から考えると、大きな成長が見られる。定時制独特の仕組みから、活動可能な時間や予算が限られており、活発な活動実績はないが、最大限やれることはやっていると思う。
【チーム学校】	評価【 B 】 地域連携活動を今後も進めていってほしい。定時制の取組が地域にもっと伝われば良いと思う。定時制では聴講生制度がしっかりと機能していると感じる。

(評価)A: 目標を十分に達成 B: 目標をほぼ達成 C: やや不十分 D: 不十分												
			育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】			
重点項目	学力的向上		★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む)	【現状】中学校時に授業を受けていない生徒が多く、このことに起因して基礎学力の習得に課題がある。 ○授業でのICT機器活用率100% ○ICT活用による自ら学び(情報収集)・考え(思考)・広げる(発表等)活動、年間7回以上	○持ち帰りも含め「1人1台端末」を活用する授業形態を全教員で実施し、一人一人のニーズや理解度に応じたきめ細かな指導を実現 ○自信を育てるため、ICTを活用した発表活動を実施 ○「学ぶ」「広げる」「振り返る」生徒の学びを支えるためのアプリ活用術等の学習会(ICT校内研修)を毎学期実施	B	・Google ClassroomやGoogle Workspace for Education、Life is Techなどの教育用アプリをほぼ全ての授業で活用している ・生徒生活体験発表会に向けて、タブレットで原稿作成作業をさせ、それをもとに校内発表会を行った ・7月29日に教員向けのIT活用情報交換会を実施した	B	・前掲のアプリの他、昨年度指定事業として取り組んでいたカシオClassPadについても、有効活用について検討中 ・個別最適化・スモールステップの学習指導に今後もIT端末を活用していく ・引き続き、10月21日に教員向けIT活用情報交換会を実施予定	B	体育以外ほとんどの授業で教育アプリケーションや動画視聴など、ICT機器を使用。総合的な探究の時間では、Chromebookを利用して意見発表会を複数回実施。一方、高知県オリジナルアンケートによると、授業外学習でICTを活用できているという回答は約50%で、生徒の実感が伴っていない事が課題。	教員側のICT機器活用方法がマンネリ化している場合や、授業に関係のない使用方法をする一部生徒等も見られる。よりよい方策を考えていく。
	社会性の育成		★豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	【現状】他者とのコミュニケーション経験が少なく、自己の将来像を明確にできていない生徒が多い ○卒業予定者の進路希望達成率100% ○年間を通じて体系的なキャリア教育活動実施 ○オリジナルアンケート項目「将来の夢や目標を持っている」の肯定的回答割合70%以上	○高知県就職支援相談センター(ジョブカフェこうち)の学校出前講座や外部人材を活用した進路講演等を年間6回以上実施 ○インターンシップの実施 ○「高知県定通生徒生活体験発表会」の校内発表会を実施(全教員で作文指導し、全員に発表させる)	B	・5月にジョブカフェ講演、6月にハローワーク講演と企業学校訪問、7月には外部人材講話を実施した ・対象者5名のうちインターンシップ参加希望者は3名、実参加者は1名であった ・欠席が続いている生徒は発表できなかったが、ほぼ全員発表し経験を積めた	B	・10月のハローワーク講演、11月のものでメッセージなどを通じて生徒の視野をさらに広げていく ・心理的負担が少ない学校行事への参加を促す ・10月の県大会をオンライン視聴し、他校生徒の思いに触れさせる	B	卒業予定者の進路決定率60%。高齢のため卒業を目標としている生徒を除くと75%。「将来の夢や目標を持っている」と回答した生徒は約55%。生活体験発表会での最優秀生徒と、定通制県体で好成績の生徒の2名が全国大会に出場。	オンラインツールの活用や、県の事業などとうまく組み合わせることで、遠方であるハンディキャップを克服していく。
	取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	【現状】室戸地域の風土・産業の理解不足、オリジナルアンケート項目「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」否定的回答約60% ○該当アンケートの肯定的回答60%以上	○校外学習「ふるさと探究」を年2回実施し、地域に対する愛着や理解を深める。 ○室戸市主要産業体験学習を年2回実施し、地域産業に対する理解を深める。	C	・今年度は様々な要因から校外学習2回分のバス代のねん出が出来なかった。4月の「仲間づくりデイキャンプ」で地元地域について知ったことから、「ふるさと探究」校外学習は11月の室戸市主要体験学習の1回をもって代えることとした。	C	・11月27日に室戸市主要産業体験学習を行う。現場を見て体験することは生徒にとって非常に有用であるので、優先度を考慮し実施を考える	B	全校で室戸市の事業所(赤穂化成・三島食品・タカシン水産)を見学し、生徒が自己の進路を考える契機とできた。「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」と回答した生徒は73%。	各種事業の見直しを行い、予算の最適化を図ることで生徒への教育効果を高める。
		教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	【現状】基礎学力の習得に課題があり、各教科の学びを課題発見や解決に結び付けていくことが難しい。言語能力や情報活用能力も不十分 ○ICT活用による自ら学び(情報収集)・考え(思考)・広げる(発表等)活動、年間7回以上 ○総合的な探究の時間は、グループで課題に取り組み、他者との協働により学びを深める	○「学ぶ」「広げる」「振り返る」生徒の学びを支えるためのアプリ活用術等の学習会(ICT校内研修)を毎学期実施 ○昨年度の総合的な探究の時間で提案された内容を1項目以上、生徒たちの協働により実現させる	B	・4月当初の職員会で校務・授業におけるIT機器活用について具体的に説明し、7月29日には教員向けのIT活用情報交換会を実施した ・昨年度生徒が企画を考え発表した「生徒・教員親睦会」を7月17日に実施した	B	・2学期は10月21日に実施予定。ITに習熟する教員を中心とし、全教職員に情報技術活用方法の理解を浸透させていく ・生徒の意見を学校運営に取り入れられる環境づくりを心がける	B	生徒意見を取り入れた生徒教員親睦会を実施。校内生活体験発表会や総合的な探究、各教科での発表活動など意見をまとめ発表する取組を通年実施した。教員向けICT研修を学期に1回設定し実施した。	生徒・教員双方がICTに触れる機会を増やす。生徒の生の声を拾えるように今後もICTを活用する。

		取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化 ○定時制の魅力発信 ○地域の教育ニーズを満たす ○校外学習の充実	【現状】地域人口の減少。認知度の低さ ○室戸市内全中学校への広報活動 ○聴講生10名以上参加、満足度90%以上 ○夏季開放講座5講座以上開講、延べ100名以上参加 ○全校・全教員で実施する校外学習を年に4回実施し、生徒の参加率80%以上	○定時制紹介リーフレットを室戸市内の全中学校に配布 ○HP、Instagramによる情報発信 ・学校行事・入試情報 ○休止していた聴講生パソコン講座の再開 ○室戸市主要産業体験学習、ふるさと探究学習をそれぞれ年2回実施	B ・予算配当が無く、外注できなかった ・生徒のプライバシーに留意しながら、行事について情報発信を行った ・夏季開放講座を実施。聴講生パソコン講座を1年ぶりに開講中 ・ふるさと探究バス代2回分は捻出できなかったため、11月にまとめることにした	B ・昨年度同様に校内で印刷し、入試要項と同時配布する予定 ・積極的な情報発信を続ける ・教員数が減る中で、実施可能な持続的な取り組みを考えていく ・「ものメッセ」の機会も活用して生徒の体験機会を確保する	B 今年度も定時制のパンフレットを配布する。聴講生は11名が申込。現在受講中の9名の満足度は100%。夏季開放講座は6講座開講、53名参加、満足度はほぼ100%。校外学習は計画より減となったが、企業学校訪問等も含めると4回を維持。	今後も地域の特長を知る活動を継続し、つながりを持つことで地域に信頼される学校を目指す。
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	【現状】関係法令等について定期的に確認する場がない ○校内研修の実施回数 1回/学期 ○不祥事防止委員会の実施回数 1回/学期 ○笑顔ある職場づくり ○やりがいの創出	○関係法令や過去の通知文の定期的な周知 ○年度当初のハラスメント研修・相談窓口の周知 ○「職務上の義務」、「身分上の義務」の徹底 ○不祥事防止強化月間の設定 ○管理職による声掛け、積極的なコミュニケーション ○前年踏襲型からの脱却・提案型の推奨・適切な評価	B ・職員会・連絡会の際、管理職3名が講師となって不祥事防止研修を行った ・管理職による声掛けを行っている ・外部に提出する書類についてダブルチェックを必ず行っている	B ・年間を通じて研修を実施する ・風通しの良い職場づくりを心がけていく ・マニュアルの流れに沿った処理を怠らないよう声掛けしていく	B 管理職による「不祥事防止研修」「飲酒不祥事防止研修」等、学期に1回以上研修を実施した。「不祥事防止月間」にも取り組んだ。	年間を通じて研修を行うことで、職員全体が高い職業倫理を維持できる体制を作る。
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○時間の意識(タイムマネジメント) ○業務の平準化 ○教育の質の向上を意識 ○教員のウェルビーイング向上	【現状】長時間勤務にあたる職員はいない ○時間外在校時間 ・45時間/月 を超える教員0名 ・360時間/年 を超える職員0名 ○全員による業務見直し ○ICT活用で抜かりない情報共有を実現	○管理職によるタイムマネジメントの啓発 ○分掌業務協働による効率化 ○長期休業中の学校閉庁日の設定 ○複雑な業務フロー等の見直し・改善 ○学期毎に業務のスクラップ&ビルド検討 ○グーグルクラスルームによる情報共有	B ・長時間勤務にあたる教員は0名 ・業務配分の改善により今年度も負担の偏りは減少している	A ・引き続き長時間勤務にならないように、また、精神面や健康面でも無理がおこらないよう職場での「声の掛け合い」を実践する ・一人ひとりの業務配分について常に見直す	A 長時間勤務にあたる教員は年間を通じて一人もいなかった。業務に余裕のある時には休暇を取りやすい雰囲気づくりに努めた。	今後予想される大幅な人員変更にも対応できるように、業務分担やノウハウの蓄積を進める。